

公的機関等における キャリアコンサルティングの現場で考えること

国家資格 キャリアコンサルタント

臨床心理士 公認心理師

大泉 多美子

1 自己紹介

(1) 略歴

- ① 東京労働局及びハローワーク職員（18年）
- ② ハローワークプラザやまがた 非常勤職員（2年）
- ③ 山形大学大学院地域教育文化学科臨床心理学専攻（修士）

(2) 現在 フリーランス（キャリアコンサルタント・臨床心理士）

新卒応援ハローワーク、ジョブカフェ、若者サポートステーション、大学、
高校、企業など

2 私が主に対応しているクライアント

- (1) 失業中の求職者
- (2) 在職中の求職者（転職希望者）
- (3) 無業者
- (4) 学生（大学生・高校生）
- (5) 在職者の職場での悩み

2-(1) 失業中の求職者

- 公的機関における相談は一期一会が基本
- まずは生活の安定であり、中長期のキャリアどころではないことが多い
- 選択肢は多すぎても少なすぎてもよくない
- 仕事探しは住まい探しと似ている（優先順位が大切）

2-(2) 在職中の求職者（転職希望者）

- キャリアプランやキャリア形成を考えるには可能性の幅が必要だが、地方ではあまりにも少ない
- 転職を勧めないケースもままある
- 転職希望のようで職場内の悩みの場合も多い

2-(3) 無業者

- 生活リズムと体力の確認から始める。
- 一発逆転ではなく、スモールステップから始める。まずはやりたいことよりできること。
- ブランク期間をどう説明するか

2-(4) 学生（大学生・高校生）

① 大学生

- ・ やりたいことがないといけないというプレッシャー
- ・ とにかくマニュアルを求める
- ・ 都市部と地方の違いを考慮に入れる必要がある

② 高校生

- ・ 求人はあるが、選択肢の幅が狭い
- ・ 同時に複数応募はできないことが多い

2-(5) 在職者の職場での悩み

- 相談できる場が限られており、どこに行ったらいいかわからない
- キャリアの悩みならキャリア形成サポートセンターがあるが、それ以外の悩み（人間関係、仕事ができないなど）も多い

3 キャリアコンサルティングをとりまく問題

- (1) キャリアとメンタルヘルス
- (2) 都市部と地方の違い
- (3) 地域・世代・職種によるギャップ

3-(1) キャリアとメンタルヘルス

① メンタルヘルスとの歴史の違い

- ・ 2000年 事業場における労働者の心の健康づくりのための指針
- ・ 2002年（民間資格）キャリアコンサルタント50000人養成計画
- ・ 2015年 ストレスチェック制度
- ・ 2016年 国家資格キャリアコンサルタント

② キャリアとメンタルは切り離せない

3-(2) 都市部と地方の違い

- 求人だけでなく職業訓練などの学び直しの選択肢も幅、量ともに全然違う
- ハローワークの施策も、「帯に短し、たすきに長し」になりがち
- 情報が圧倒的に都市部向けのものに偏りがちで、就職活動の仕方も地方では異なることが知られていない

3-(3) 地域、世代、職種によるギャップ

- ① オンライン会議システム？リモートワーク？DX？
 - ・ 大学生だけは確実に普及
 - ・ 社会人はごく一部では定着しているが、全く経験がないケースも多い
- ② ジョブ型雇用
 - 一定のスキルがあれば有効だが、ない人の方が多い

4-(1) 最後に

- 政策が浸透するにはメンタルヘルスの例を見ても、かなり時間がかかるため、キャリア支援が誰にとっても身近なものになるのは相当先になるのではないか。
- DXの進展によって、都市部と地方の格差は本来なくなっていくはずであるが、現実的には意識の差があり、意識改革が必要である。

4 -(2) 最後に（続き）

- とはいえ、これから誰もが自分のキャリアについて考え、それが実現できる社会となるためには、キャリアの伴走者であるキャリアコンサルタントの役割は大きくなっていくということを改めて自覚し、さらなる研鑽を積んでいきたい。

ご清聴ありがとうございました。